

## 会 議 録

会議の名称	第6回第3期つくば市教育振興基本計画策定委員会		
開催日時	令和2年12月17日 開会 15時30分 閉会 17時40分		
開催場所	つくば市役所 会議室 202		
事務局(担当課)	教育局教育総務課		
出席者	委員	宮寺 晃夫 委員 上田 孝典 委員 小野村 哲 委員 鈴木 孝至 委員	根津 朋実 委員 長橋 進也 委員 和田 雅彦 委員 宮本 由美子 委員
	その他		
	事務局	教育局長 吉沼 正美 教育局次長 中山 隆 教育総務課長 笹本 昌伸 学務課長 間中 和美 教育施設課長 飯泉 法男 健康教育課長補佐 川又 文江 学び推進課長 江尻 佳之 特別支援教育推進室長 土田 圭子 教育相談センター所長 横田 康浩	総合教育研究所長 板谷 亜由美 生涯学習推進課長 伊藤 直哉 文化財課長 石橋 充 中央図書館長 柴原 徹 教育総務課長補佐 山岡 めぐみ 教育総務課係長 青木 孝之 教育総務課主任 谷沢 潤一郎 教育総務課主事 田崎 智也
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由	—		
議 題	1 第3期つくば市教育振興基本計画策定の素案について 2 今後のスケジュールについて 3 その他		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 協議事項(内容は上述の議題欄のとおり) 3 閉会		

＜議事録＞	
和田委員	<p>皆さん、お集まりいただきましてありがとうございます。5分ほど過ぎましたけれども、宮寺委員長が急用のため少々遅れるということなので、私のほうで進めさせて頂きたいと思います。</p> <p>それでは、第6回の策定委員会になりますでしょうか、こちらを始めさせていただきます。まずは事務局のほうからお願いしたいと思います。</p>
笹本課長	<p>教育総務課笹本です。どうぞよろしく申し上げます。まず進め方についてお話しさせていただければと思います。前回の委員会のほうで、お手元の資料の32ページまではひととおり御審議、御意見頂いているかたちになりますので、33ページ以降、こちらについて皆さんに御意見等いただければと思います。あわせて、長橋委員、小野村委員から個別に疑義のある内容について事前にメール等でいただいておりますので、33ページ以降については進行に合わせて疑義について各委員のほうから御指摘等いただければと思います。前段の32ページまでの部分については、33ページ以降すべての確認が終わった後に改めてそちらについても御意見等いただければと思いますので、そのような流れで進めていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。それでは32ページまでのところなのですけれども、最初に私のほうから確認ということで申し上げたいことがあります。</p> <p>別紙でA4が1枚裏表になっているものですが、学校長会からの御意見ということでまとめさせていただきました。教育総務課の青木係長から資料をいただきまして、校長会の企画会、45人全員ではありませんが御意見を頂くということで読んでいただきました。</p> <p>①として振興基本計画案の12ページなのですがすけれども、「学年の枠にとらわれない異年齢での取組など、魅力ある授業を展開」ということが書いてあります。非常にそういう風にできれば素晴らしいわけなのですがすけれども、現段階は合同体育もできない、クラスの枠を超えて大人数で特別活動もできない状況の中で、このコロナ禍の中では難しいかなというような意見がありました。ただ校長会全体としてはこういう意見があったものの、この文言は、学年の枠にと</p>

	<p>らわれない異年齢での取組、これはつくば市として目指す方向であるので、ここに記載されるのはそれでよろしいのではないかという話になっております。</p> <p>②つくば市は特別支援教育に力を入れているにもかかわらずその文言が少ないというような御意見もありました。ある校長先生はもっとう特別支援教育という言葉を使ったほうがいいのではないかということなのですが、26ページ、27ページを見ていただくとわかりますように、インクルーシブ教育であるとか、特別支援教育という言葉は使っていないくとも、充分それに関する事が記載されているので、こちらはこの策定案のとおり、基本計画案のとおりでいいのではないかというふうに落ち着いております。</p> <p>③ここにあるとおりです。文言を変えるとかいうことではありません。</p> <p>④8ページに関しては、「遊びや人の関わり～」となっているところを「遊びや人との関わりを大切に～」ということで、修正案として赤で事務局のほうに入れてもらっているところです。8ページの真ん中下のところですね。</p> <p>続きまして⑤「自発的」「主体性」という言葉がありますけれど、使い分けを明らかにしていきたいという御意見がありました。</p> <p>以上5点プラス1ということで、私のほうから皆さんと共通理解をしていきたいと思っていますところです。</p> <p>次に裏面のPTA連絡協議会からの御意見のほう、長橋委員ご説明いただけますでしょうか。</p> <p>市P連の長橋です。まず最初に4ページですが、前回の委員会では言葉で説明がありまして、図の説明につきまして「つくば市未来構想」と「つくば市戦略プラン」の言葉で説明があったんですけども、それをやっぱり言葉のところに入れていかないと、改めて見たときに何故ここにこの2つのものが入っているのかなということを疑問に思ってしまうので、入れたらどうかという指摘でした</p> <p>次に、これは33ページ以降ですがよろしいですか。48ページの図書館サービスの……</p>
長橋委員	
笹本課長	すみません。もし可能であれば33ページ以降については改めて御意見いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

長橋委員	<p>後で。はい。分かりました。よろしくお願いします。あとですね、市P連の理事会のほうに文章を投げて意見を求めているところなのですが、皆さん忙しいのと、私が送るのが遅くなってしまったこともあってまだ意見の集約が出来ていません。</p> <p>後で意見が挙がってくるかもしれないのですが、メーリングリストに流しても構わないでしょうか。今日が確定ということでしょうか。</p>
和田委員	事務局、いかがですか。
笹本課長	<p>今後の主な流れについてですが、本日、基本的にはすべて御審議いただいた上で、来週23日の市の庁議において1月からパブリックコメントを実施するに当たっての審議という流れになっています。基本的には本日、御意見を集約いただくということで御理解いただければと存じます。もし市P連さんの方で御意見があればパブコメのほうで御意見いただければ助かります。よろしくお願いします。</p>
和田委員	いま長橋委員からありました4ページ、つくば市未来構想とつくば市戦略プランですけれど、これは検討ということですが……。のように……。
笹本課長	4ページを御覧いただければと思うのですが、御指摘いただいたものを踏まえまして、文章の中で位置づけを明記させていただいております。
和田委員	それではこちらで、赤で直っているものでよろしいでしょうか。
長橋委員	はい、大丈夫だと思います。
和田委員	それでは48ページ、53ページは後ほどということで、次に小野村委員よろしいでしょうか。
笹本課長	小野村委員からいただいた御意見についても、まずは33ページ以

	<p>降について御審議等いただいて、前回と合わせて引き続き皆様に御審議いただいた上で、その前段、32ページまでの部分を残った時間で協議いただきたいな、というふうに思っております。</p>
和田委員	<p>それでは33ページ以降ということで、御審議のほうお願いいたします。基本方針4の「学び続ける教職員を支援する」というところですが、御意見はございますか。長橋委員お願いします。</p>
長橋委員	<p>市P連の長橋です。施策のほうでは「ティーチング」、「コーチング」という言葉を使っているのですが、そのあとの説明では「教え」、「学び」と書いてあります。ここは、統一する必要ないでしょうか。</p>
和田委員	<p>いかがでしょう。御意見がございましたが。</p>
青木係長	<p>じゃあすみません。よろしいですか。教育総務課なのですけれども、委員の御指摘の「教え」、「学び」、「ティーチング」、「コーチング」というのは、それぞれ大綱の中に出てくる文言でして、それぞれに意味を持っていると考えております。大綱にそれぞれの言葉で出ているものですから、できれば統一することじゃなくて、それぞれ違う言葉として使用させてもらえればなと考えております。</p>
長橋委員	<p>大綱に従うということで理解しました。ありがとうございました。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。それでは基本方針の4のところ、33ページ、34ページについてはこちらでよろしいでしょうか。根津委員お願いします。</p>
根津委員	<p>34ページ「教職員研修の充実」と赤字で修正が入っているところなんですけれども、『「教え」から「学び」へ』で始まる文章の最後のほうなんです、「各教科の指導法研修を構築し」とあるんですが、教科だけではないので、学校が教えているのは。ここは「各教科等」と「等」の字を漢字で1文字入れていただきたいと思いま</p>

和田委員	<p>す。以上です。</p> <p>ありがとうございました。そのとおりだと思います。こちらで修正をよろしく願いいたします。34ページについてほかに御意見ありませんでしたら施策の2のほうに、すみません、小野村委員お願いいたします。</p>
小野村委員	<p>基本方針4の「教職員研修の充実」というところですが、ここで書かれている内容を見ますと、どうしても教師が「研修を受ける」といったニュアンスが非常に強いかと思います。児童生徒同様、今まさにティーチングからコーチングへというお話にも関係しますが、ここでは教職員の自主的な研鑽を促し、支援していく体制の充実等の表現で、教職員が「自分から学ぼうとする意欲」を大事にするというようなことを入れていただけないのではないかと思います。子どもたちが主体的にということ考えると、そこを入れないとちょっとバランスが崩れるのではないのでしょうか。</p> <p>それから、その後の「教職員の人材育成と学校組織の活性化」というところですが、ここはとても大事な表現が入っているので訂正ではなく確認なのですが、この中に「現状に問題意識を持つ、『問い続けることのできる教職員』の育成」という表現があります。これはとても大事だと思っております。</p> <p>私自身、若いころにある研究授業を見まして、研究授業の問題点を指摘したことがありました。教員時代ですね。その時に「これは誰先生が指導してこういう授業をやっていると思っているんだ。若手が何を言っているんだ」というようなことでお叱りを受けたことがあります。少なからずその雰囲気というのはまだ教育現場にあると思います。そういう時に、ここで問題意識を持つ教師を育てるといことは、教育界の改善のために絶対に必要なことであって、こういったところで述べているのはまさに批判的思考ということだと思いますので、前回も出ましたがクリティカルシンキングというところをこういったところにしっかりと強調していただければ、必要であればこの中にも批判的思考ということを盛り込んでいただければと思います。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございます。2点、まず「教職員研修の充実」のここ</p>

	<p>ろなのですが、自主的な研鑽を促すという文言、そのとおりだと思いますので、子どもに自主的に、主体性を持ってというふうに伝えている先生方が自ら学ぶというようなことで、研修を受けるだけではなく自分たちでやっていくのだというニュアンスはとても大切だと思います。ぜひ事務局のほうでこの「自主的な研鑽を促し」という文言を入れていただければと思います。</p>
<p>笹本課長</p>	<p>副委員長、すみません。いまお話のあった「教職員の自主的な研鑽を促し」という部分なのですが、本文中にどういったかたちでどのように入れたらよろしいか御意見いただければと思います。よろしくをお願いします。</p>
<p>和田委員</p>	<p>小野村委員をお願いします。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>すみません。私もお送りしたデータが間に合いませんので、全部提案を出すということが出来なかったのですが、この後「また対面・集合研修・オンライン研修等、ベストミックスな研修体制の構築に取り組みます」の後にさらに、「ICT等を活用し教職員の自主的な研鑽を促し、支援していく体制の充実」と加えていただいても良いのではないかと。実際コロナの期間中に若い先生方がウェブを使って自分たちでいろんなところでミーティングを開いて研修しているところに私も参加させていただいたのですが、今までのように教育委員会が、例えばつくば市ならつくば市教育委員会が主催するっただけではなくて、茨城県内の先生方が自主的に集まってネットで授業研究をしているというのを見ましたので、そういった意味でこの後にですね、オンライン研修などとも絡めて加えていただいたほうがいいのかと思います。</p>
<p>板谷所長</p>	<p>総合教育研究所です。御意見いただきありがとうございました。確かに教職員の自主的な研鑽ということはとても大切なことで、総研でも先生方の要望に応じて訪問研修等を行っております。小野村委員の御意見を読ませていただいたときに、訪問研修を入れればいかというようなことを考えていたのですが、対面研修、集合型研修、オンライン研修のところに訪問研修も、先生方の要望に応じた訪問研修等のベストミックスによるというふうにしてもよいかと</p>

	<p>考えていたのですが、いかがでしょうか。</p>
小野村委員	<p>私の頭にも皆さんの取組があったので、訪問研修をどんどん進めていくというニュアンスを感じていました。それでも結構だと思えます。</p>
板谷所長	<p>それでは検討させていただきますので。ありがとうございました。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。それでは今の部分はよろしいでしょうか。もう一つございます。教職員の人材育成と学校組織の活性化のところで、文章はこれでいいのだけれども、とても大切なところだということ、批判的思考という言葉を入れられれば入れていただきたいというようなことでございます。</p>
小野村委員	<p>このままでも結構です。</p>
和田委員	<p>問題意識を持つことができる教職員を一人でも多く育てていくということで、事務局のほうでいかがでしょうか。批判的、クリティカルシンキングを文言の中に入れることが出来ればというところですが。</p>
笹本課長	<p>もしこのままのかたちでよろしければこのままの文面でいかがでしょうか。</p>
和田委員	<p>小野村委員いかがでしょうか。それでは現行のままということで行きたいと思えます。心の中ではこういったものも共通理解というようなことで。</p> <p>それでは先に進めさせていただきます。35ページ、36ページに関しては何かございますでしょうか。小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>35ページ、「働き方改革の施策の方向性」が背景の説明という書き方から始まっているので統一性という意味ではどうかなと。そこで段落をとるのではなくて、「という実態を踏まえ」程度にまとめておいたほうが、統一性が取れるのではないかなと思えます。</p>

	<p>変更案をお送りした中で、「…という実態を踏まえ」としましたが、つい先日つくば市のほうで働き方改革の分析結果を新聞記事で見たところだったんですが、そこで先生方の声が上がっていましたので、最新のデータに基づいて、実態を踏まえと入れていただければいいかなと思いました。</p> <p>それと「教員の働き方改革」ではなく「教職員の働き方改革」としたほうがよろしいのではと思いました。学校は教員もそうですが、教える先生以外にも皆さんで支えているものですので、そういった先生方の働き方を考えて一緒に働くということでは教職員と、または教職員には「教える職員」という捉え方がありますので、「学校教育に携わる職員」とするとより分かりやすいのではないかと考えました。そこでお手元の資料にもあるのですが、先のような変更案を出させていただきました。</p>
和田委員	御説明ありがとうございました。いかがでしょうか。
笹本課長	施策の方向性のところの「教員」ですが、これは平成30年度に教育委員会で実行計画を策定する前段でアンケートをしたのですが、そちらは教員しかアンケートをしていなかったのですね。実行計画の中でも教員という記載で計画の策定をしているもので、そこに合わせた形で教員としています。
和田委員	大元がそうであれば致し方ないと……。
笹本課長	実際は「教職員」のほうがいいのではないかなとは思いますが。
小野村委員	「教職員」のほうがより良いのではないかと思います。
根津委員	<p>確認ですけど、施策の方向性の最初の段落は、このアンケートは市内のことですか。こういう数字を出すときには何人が回答したかを書いていただかないと、この結果を見たいというときにどこにアクセスすればいいか分からないので。これはつくば市内の小学校教員対象のアンケートですね。ではそう書いていただいたほうがいいというのがひとつ。</p> <p>それと、この文章についてはこれなのですが、先ほどの、次の段</p>

	<p>落からは「教職員」と統一したほうが良いと思います。第二段落、第三段落からはやはり「教職員」と。ただ最後の令和元年度、2019年度に策定したものが「教員の働き方改革」なのですね。そうであればこれは先に決まっているものなので、変えることはできませんからこのままで致し方ないのではないかなと思います。以上です。</p>
<p>和田委員</p>	<p>ありがとうございました。根津委員の御意見はよろしいですか。つくば市内ということを中心にきちんと明確にするということ、「教職員」で統一するという、よろしくお願ひしたいと思ひます。35ページは以上でよろしいでしょうか。事務局で今の御意見について何かありましたら。小野村委員お願ひします。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>全体について言えることなのですが、36ページですね。「外部人材の活用」という言葉がありますが、下の文章では「活用」ではなく「連携の強化」と書いてあるのですけれども、「活用」という言葉が私はどうも上から目線だというような印象を受けてしまいます。「保護者を活用する」というと、どうなのだろうかという印象を受けますので、下の表現を使って「外部人材との連携」とかそういった表現で、全体として「活用」という言葉は使わないほうが良いのではないかと、まあ字の印象の問題ですが。</p>
<p>和田委員</p>	<p>小野村委員から、「外部人材の活用」よりは「外部人材との連携」のほうが良いのではないかと御意見が出されました。これに関していかがですか。賛成あるいは反対ということで進めていきたいと思ひます。上田委員お願ひします。</p>
<p>上田委員</p>	<p>今の小野村委員の御提案に賛成です。「外部人材との連携」としたほうが、表現が良いのではと思ひます。その次の「サポートスタッフの充実」というところですが、教職員の負担を軽減するためとあるのですが、本音ではそうかもしれませんが、建前としては教員の質を高めて子どもたちにより良い教育を行うためというのが本来の目的だと思ひますので、この部分は削除するかあるいは教職員の働き方改革を進めるためというようなかたちで、負担を軽減することを目的にはしないほうが良いと思ひます。</p>

<p>和田委員</p>	<p>ありがとうございます。36ページのサポートスタッフのところですけれど、いかがでしょう。これまでの話し合いでずっと教職員の負担を軽減するというので進めてきましたけれど、このように冊子になったときに確かに子どもたちにより良い教育を行うためにサポートスタッフを充実させるということが正しいと思いますので、今の上田委員の御意見に関して、もし事務局のほうでそのように変更できるということでしたらそうしていただければと思います。他の委員の皆さんからこのままでいいという意見はありますでしょうか。それとも、教職員の負担を軽減するというのは直接的な働き方改革の項目としてあるので、このページにおいてはこの文言で通すというのもひとつかと思いますけれど。根津委員お願いします。</p>
<p>根津委員</p>	<p>いまのところはやはり変えたほうがいいかなと私は思います。35ページの施策の方向性のなかに、下から3行目に「児童生徒の豊かな学びの実現を目指し」と書いてあるわけですので、これをここに持ってきて「児童生徒の豊かな学びの実現を目指し、様々な分野において専門性を持つ」というところであれば整合性が取れるだろうというふうに思いますがいかがでしょう。</p>
<p>和田委員</p>	<p>そのような御意見が出されました。委員の皆さん、こちらの御意見はいかがでしょう。事務局、こちらでいかがですか。</p>
<p>笹本課長</p>	<p>そのようなかたちで修正したいと思います。</p>
<p>和田委員</p>	<p>ありがとうございます。それでは「サポートスタッフの充実」のところはそのようにしていきたいと思います。36ページに関しては他にございますか。 それでは37ページ基本方針5のほうに移らせていただいてよろしいでしょうか。37ページ、こちらで気になるところ等ありましたらお願いいたします。根津委員、お願いします。</p>
<p>根津委員</p>	<p>3点あるのですけれども、ひとつは37ページの施策の方向性の1行目、小・中・義務学校とあるのですがこれは義務教育学校でしょうか。これがひとつ。</p>

	<p>次が38ページのところなのですが、最後の「教材及び管理備品の計画的な整備」、ここが2行で終わっていてちょっと寂しいなという気もしますので、増やせというわけではありませんが、例えばICT機器の整備等についてはどのようになるかなと、ここではないところで書かれるかもしれなくて繰り返しになってしまうかもしれないのですけれども、今後の見通しについてやはりここは一言追加で段落を増やしていただいても良いのかなと。</p> <p>3点目ですけれども、これは中身についてではなく体裁なのですが、施策1で37ページ、38ページはひっくり返さないと見られないわけですので、これが例えば35ページ、37ページであれば見開きで左側に基本方針が来て右側に内容というふうになるんですけど、なぜこのようなレイアウトになったのかちょっと良く分からないんですが、工夫をしていただければ。あえてこのように奇数ページから始めるというルールがあればまた別ですけれども、前回欠席したのでその経緯は良く分からないので必要に応じて御説明いただきたいと思います。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。まず37ページの小・中・義務学校、こちらは「教育」が入ったほうが分かりやすいですね。他の委員の皆様も同じ意見だと思いますので、訂正をお願いしたいと思います。</p> <p>2つめですけれども、38ページの下の部分、ICTのことを入れるのか、根津委員から提案がありましたけれども、教材及び管理備品の計画的な整備についての見通しがひとつふたつあったほうがいいのか、ということでした。最後にレイアウトについてです。先ほど私も説明を聞きながら、レイアウトについては見づらいのかなというのを感じておりました。その件についてもお願いいたします。</p>
笹本課長	<p>レイアウトはこれで完成形ではないので、おっしゃったかたちで最終的に推敲していければと思います。</p>
和田委員	<p>それでは、最初の義務教育学校のこと、それからレイアウトについてOKということで、任せたいと思います。2番目に意見のあった教材及び管理備品の計画的な整備については……。</p>
根津委員	<p>よろしいですか。</p>

和田委員	はい、根津委員お願いします。
根津委員	すみません、たまたまいま眺めていたら、その一つ上の文章に「。」がないと。「財政負担の軽減及び平準化を図ります」のところに「。」がないですね。
笹本課長	すみません、教育総務課です。ここは教材管理備品なので、ICTとはまた別の学校用の備品関係になります。こちらの中身についてはもう少し書けるものがあるかどうか担当課と協議した上で進めさせていただきたいと思います。
和田委員	ありがとうございます。そちらでお願いします。それでは39ページに進みたいと思います。施策2「学校の安全体制の確立」。こちらは大局的にどうかという部分がありましたら御意見をお願いします。よろしいでしょうか。40ページも併せてお願いいたします。防犯、防災体制の充実、通学の安全確保。この部分に関してはこれでよろしいですかね。 次に施策3「学校等の適正配置」。こちらについて御意見をお願いします。41ページです。上田委員お願いします。
上田委員	対案を全く考えていないので無責任な発言になるかもしれませんが、この学校の適正配置のところですけども、例えば春日ですとか研究学園地区、みどりので今開校している義務教育学校はかなりマンモス化していて、開校した時から通学区、学区割の問題が地域の子たちの最大の関心事になってきていたことを聞いています。また、みどりのや研究学園に新しく学校ができるに当たって、学区割がどうなるのかというのは保護者にとってはかなり大きな関心だと思いますので、適切に地域の声をいかしながら学区を設定していくというのをここに盛り込む必要があるのではないかと考えております。
和田委員	ありがとうございます。確かに学区に関しては保護者の関心が高いところでありまして、これを見たときに「地域の声をいかしながら」という一言が入っていると、ずいぶんと市民に寄り添った、保

	<p>護者の気持ちを考慮したものになると感じます。いかがですか。もし同じような意見でありましたら、「地域の声をいかしながら」というような言葉を入れてもらうということで訂正をお願いしたいのですが。</p>
<p>宮寺委員長</p>	<p>上田委員から御指摘がありましたように地域の保護者の方からすれば最大の関心事といってもいいくらいのことなので、もっと地域の実情に応じた学校等の適正配置を図るとともに規模の適正化を進めますという、これを見る限りは一般論なので、現在ここまで進んでいるんだ、こういう課題が残されているんだというもっと具体的なことをここに盛り込むことはできませんか。適正配置委員会でしたか、審議会でしたか、進んで議論されてきて、こういうことは難しいことかもしれませんが、いま進んでいる範囲でここまでやっている、まだこういう課題が残されていると。ベースの記述に具体性がないので、もう少し具体性を盛り込んではどうでしょうか。どれくらいできるものなのか。</p>
<p>和田委員</p>	<p>それでは、間中課長お願いします。</p>
<p>間中課長</p>	<p>学務課です。よろしくお願いします。御指摘のとおりかとは思いますが、学区審議会につきましては、通常の学区を決める場合には適正配置計画があって学区審議会という組織がありまして、それぞれ新設校になるエリアで行うものですから、全体で同じ進行具合でもないものですから、もともと今現在の具体的なことを明記するというのはなかなか難しいのかなと感じております。ただ、そうは言っても今お話しいただいたように学区審議会でも学区を決めるのにこういう手続きを踏んでいるというようなことはもう少し丁寧に書かせていただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>和田委員</p>	<p>ありがとうございました。そちらでよろしいでしょうか。</p>
<p>宮寺委員長</p>	<p>わかりました。</p>
<p>和田委員</p>	<p>あとは、先ほどございました地域の声をいかしながら、ということも御検討ください。</p>

	<p>それでは42ページに進めさせていただきます。施策4「学校給食の充実」についてです。この部分で気になるところ、本当に最終です。何かありましたらよろしくお願いします。根津委員お願いします。</p>
根津委員	<p>42ページの下から5行目ですね、「旬の食材を沢山取り入れた」と、「沢山」ってどれぐらいだ、となりますので、「沢山」は取ったほうが無難かなと思います。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。いかがですか。健康教育課。</p>
川又補佐	<p>健康教育課です。つくば市の学校給食における地産地消ガイドラインというものがあまして、そちらで地産地消の食品を取り入れた食材についての指標というものがあまして、このガイドラインなんですけれども、2019年度から2023年度の5年間の計画なんです。指標というのが中間年度で確定するというので決められておりませんので、どれくらいというところは言えないところなんです。なるべく地産地消を使って給食の献立を提供するとガイドラインに謳ってあるので、これを入れたんですけれども。</p>
根津委員	<p>でしたら「沢山」よりも「なるべく」のほうがいいと思います。以上です。</p>
和田委員	<p>いかがですか。「沢山」という言葉は2023年までのガイドラインには……。すみません、お願いします。</p>
吉沼局長	<p>教育局長吉沼です。今の議論をお聞きしまして、「なるべく」などの提案ありがとうございます。提案を出していただいたのですが、「沢山」というのは取ってもいいのかなと。先ほど健康教育課の説明がありましたが、途中だということと、はっきり計画で位置付けているわけでもないの、多くという意味で使っていきたいという担当課の願いはありましたが、最初に委員からおっしゃっていただきましたように「沢山」を取るということでいかがでしょうか。</p>
和田委員	<p>根津委員、いかがですか。それではなるべくではなく、旬の食材</p>

	<p>を取り入れた献立を提供しますということで進めていければと思います。ありがとうございます。</p> <p>宮寺委員長がいらっしゃいましたが、このまま少し私のほうで進めさせていただきます。基本方針6についてです。ICTを活用した教育を推進するというので、御意見をお願いします。小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>「遠隔システムを活用したシームレス教育」ということなのですが、「遠隔システム」といった場合と「シームレス教育」といった場合、これは同じ意味で使われているのかなと思います。全体として非常に難しいな、というイメージがありますので、言葉は絞れるものは絞っていったほうが分かりやすいと思います。シームレスというのはなかなか馴染みのない言葉だと思いますので、「遠隔システムを活用した教育の充実」ということで、シームレスを省いても、この後も含めてですね、省いてもよろしいのではないかと思います。</p>
和田委員	<p>ただ今の小野村委員の御意見なのですけれども、これについて他の委員からなにかありますか。板谷先生お願いします。</p>
板谷所長	<p>総合教育研究所です。このシームレスに関しましては、学校と家庭を切れ目なくつなぐ、段差なく、壁がなくつなぐという意味で使わせていただいております。小野村委員のおっしゃった、「遠隔システム」と「シームレス教育」が同じような感じとは、つくば市としては、担当としてはとらえていないところがありまして、先生方の説明についても学校と家庭を切れ目なくつないでいくのが「GIGAスクール構想」だということで、いろいろな場面で説明しておりますし、つくば市はICT教育を先進的に進めているということで新聞、雑誌に取り上げていただくことが多く、このシームレス教育ということは使っているのでも、入れさせていただければと思うのですが。</p>
和田委員	<p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>おっしゃることは分かるのですが、言葉が躍ってしまっている</p>

<p>和田委員</p>	<p>いう印象が私にはあって…。実際にシームレスという言葉、シームレス教育と言いながらも、教育の現場でどれだけの方がシームレスというカタカナ語を理解しているのかなと疑問に感じています。シームは御存知のように「縫い目」ということですから、「縫い目のない教育」ですが、そういう意味では遠隔システムを活用した教育が学校と自宅をつなぐということなので、リモート教育と言っても遠隔教育と言ってもシームレス教育と言っても同じ意味かと思えます。</p> <p>さらに、この下ですね。施策の方向性の下の段落で、「学校と家庭で切れ目のないシームレスな学び」というのは重複しているわけですね。ここでもシームレスはいらなくて、「学校と家庭で切れ目のない学びの実現を目指すとともに」としたほうが私は自然であると思えます。その下も「学校と家庭をつなぐ学びの推進」、つなぐということはシームレスということですから、同じ言葉がだぶってしまっています。シームレスという言葉が急に流行語のようになっていますが、ここはシームレスという言葉は使わずに、「切れ目のない教育」としたほうがよりわかるのではないかと思います。</p> <p>さらに申し上げますとその次に「個別最適化学習」という言葉も何度となく出てきているのですが、これもやはり難しいなと思えます。より多くの方に分かりやすくということで考えると、「個に応じた学びの推進」としたほうが、肩がこらずに済むのではないかと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございました。今の小野村委員の御意見いかがですか。</p> <p>私は学校現場におりますので、総研などの研修会でもシームレス教育ということでだいぶ一般化してきたかなという。保護者の方には難しいかもしれないですが、学校現場では総研で指導している遠隔システムを活用したシームレス教育の充実ということで、先生方は取り組んでいるかなという印象を持ちます。そこで提案ですけれど、施策の方向性の下のところに※で、「シームレス＝学校と家庭を切れ目なくつなぐ」というちょっとした説明を入れるということで、つくば市がやろうとしているシームレス教育、この言葉を打ち出しているのがつくば市らしいのかなと思っているんですけど、取ったほうがいいという意見、それから但し書きを付けたうえで残</p>
-------------	---

<p>小野村委員</p>	<p>したほうが良いという考えといろいろあると思うのですが、はい、お願いします。</p> <p>そもそも基本計画を誰向けに書いているのかということを確認する必要があると思います。教職員は分かっているとしてもそれ以外の一般市民が、つくば市の教育がどういう方向に向かっているのだろうかということ、非常に重要なテーマです。そう意味では、教育大綱を作る際にも、どうしても難しい言葉が出てきてしまうのですが、なるべく一般の方々、教育が専門ではないという方々にも分かりやすいようにということで策定しました。もちろんシームレスという言葉を使ってはいけないということを申し上げているつもりではなくて、そういう意味では最初の施策1を「遠隔システムを活用した教育の充実」としておいて、その中で「切れ目がない学びの実現を目指します」ということで、逆にその下に「つくば市ではシームレス教育の充実に努めています」というようなことで注釈をつけるとか。いずれにしても、最初のところだけでもシームレス教育という言葉は抜かしても全く違和感なく、却って分かりやすいのではないかと私は思います。</p>
<p>和田委員</p>	<p>ありがとうございました。確かにこの教育大綱を読んでも、本当に分かりやすいということが1番で作られているなと感じます。それに準ずるのならば、小野村委員の意見も尤もだなと感じます。事務局、いかがでしょうか。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>小野村委員がおっしゃったこと、大変よく分かりました。といっても、和田副委員長がおっしゃってくださったように、いまは教員もシームレスという言葉は合言葉のように段々使ってきていて、それを目指そうという柱の言葉にしているところがありますので、どこかでは使いたいというのが正直なところです。確かに施策の方向性のなかにある「切れ目のないシームレス」というのは重複しているところがあるので、ここはいらないのかなと思います。それで、できるだけ使っていいところに使わせていただいて、分かりづらいということであれば、先ほど和田副委員長がおっしゃったように、※で注釈を加えるという形で使わせていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>

和田委員	小野村委員、よろしいですか。
小野村委員	はい。
和田委員	それでは、43ページの方はそのような形で進めさせていただきます。44ページの「個別最適化学習の推進」というところについて、こちら小野村委員から御意見がありました。「個に応じた学びの推進」としてはどうかということで、教育大綱においても分かりやすい言葉を用いるということがあったので、そういう御意見がありましたけれども、こちらはいかがですか。
森田教育長	これも「G I G Aスクール構想」の狙いの中に、「個別最適化」という言葉が、ICTの活用も含めて大分言われるようになっていきますから、ここはこの言葉でいかせていただいた方が良くと思います。
小野村委員	結構です。
和田委員	分かりました。それでは施策2「ICT教育環境の充実」に移らせていただいて、45ページに御意見がある方、よろしくお願ひします。45ページ、46ページと見ていただきまして、御意見があればお願ひします。よろしいですか。これまで何度も話し合いを重ねて辿り着いたものですので、こちらで45ページ、46ページを進めさせていただきますたいと思います。 47ページに移ります。基本方針7「学びを支える施設を整備する」。こちらはいかがでしょう。48ページと併せて御意見をお願ひします。
長橋委員	事前の意見としても出させていただいたのですが、4交流センターの連携だけでなく、つくば市の他の交流センターにも図書室が、小さいものですが、いっぱいあって、家から近いとか遅くまで空いているとかですごく便利に使わせていただいています。そちらの方の図書室との連携というのをどこかでやってほしいと思うのですが、けれども、数がかなり多くてなかなか難しいと思いますが、それを

	<p>やっていくような姿勢を見せるような文章を入れることはできないでしょうか。</p>
和田委員	<p>はい、お願いします。</p>
柴原館長	<p>中央図書館長の柴原でございます。御意見いただきましてありがとうございます。先日の社会教育委員会議のなかでも少し触れさせていただいたのですが、筑波大学の先生や一般公募の委員も入り、今後の図書館サービスを考えるつくば市図書館懇話会を2年間ほどやっけていまして、今年の3月に懇話会からの提言書をいただきました。その提言のまとめとしては、3つのステップに分けて今後ステップしていったらどうかというところがありました。今後1～5年後を1段階、6～10年後を2段階、11～15年後を3段階として、それぞれの目標などを提案していただいております。今回長橋委員から御提案いただいた御意見でございますが、これは6～10年後の第2段階の中に含まれております。提言書はつくば市の計画というわけではありませんが、頂いた御提言なのでそれに沿った形でいろいろと検討していかなければならないと思います。また、提言書の第1から第3段階については、何年度から何年度という風に取り決めをしているわけではございませんが、御提言をいただいたのが今年の3月ですので、第1段階は概ね令和3年度からの5年間になるものと考えています。従いまして、先ほど申し上げました長橋委員からの御提案につきましては第2段階の中に入れていまして、いま御協議いただいているこの振興基本計画の計画期間が終了したその後の、令和8年度以降の振興基本計画の中に盛り込んでいければいいかなというふうには考えております。ただ、図書館としましても、4交流センター以外の図書館・図書室、そちらの方は、現在の図書館、これは30年前にできたわけなのですけれども、その時点でも考え方としては、いつでも・どこでも・誰でも図書室に入れる、図書に触れることができるということを挙げておりますので、当然必要なこととして考えております。今の段階では「努力」という文言を入れることについては、拒む理由はありませんので、入れていただいてもかまわないかと思っております。ただその次の振興基本計画においては、その部分については積極的に入れていきたいと思っております。</p>

和田委員	ありがとうございました。長橋委員、意見があればお願いします。
長橋委員	御説明いただきありがとうございます。ぜひ次の段階に向けてやっていくという、恐らく第2段階に向けての検討が始まるということだと思いますけども、そういったことも含めて「努力する」といったことを書いていただけるとありがたいと思います。っよろしくお願いします。
和田委員	ありがとうございました。その他に御意見はありますか。
小野村委員	22ページでしょうか。基本方針2の中で触れられている「読書活動の推進」での内容と、今のこちらのページの「図書館サービスの充実」の内容が、重複しているといいますか、少し整理が必要ではないかと思っております。「読書活動の推進」の中に、「様々な図書、視聴覚資料、その他学校教育に必要な市長を収集・整理・保存することで」という記載がありますが、これは読書活動というよりは、基本方針7の施策1で取り上げた方が相応しいのかなと思います。あと、「中央図書館と学校図書館が連携して…」という辺りも、少し内容の整理が必要ではないかという感じがします。読んでいて書き分けが良く分からなかったのです。ちょっと検討いただければと思います。
和田委員	ありがとうございました。22ページの「読書活動の推進」と47ページですね。こちらに関してはいかがでしょうか。中央図書館の方でお考えいただけますか。
青木係長	整理するようにします。
和田委員	分かりました。それではここは整理してください。ほかに基本方針7の47ページ、48ページについて、何かありましたらお願いします。よろしいですか、時間も過ぎておりますので。 49ページ、50ページの施策2「つくばの歴史・伝統文化を体験できる場の整備」について御審議いただきたいと思います。こちらに

	<p>ついて、何かございましたらお願いします。</p>
小野村委員	<p>基本方針7の施策2の方でよろしいでしょうか。こちらは施設整備としていると思うのですが、施策の方向性というのは、基本目標1に沿ったものになっているのではないかと思います。整備ということでは、ちょっとずれているのかなという印象を受けました。それから、「国際社会で活躍する人材育成を目指して、伝統・文化・郷土の歴史等に触れる教育の推進」という、ここで突然「国際社会」ということが出てくるのですが、つくばの歴史・伝統に立脚したということかもしれません、少し唐突な印象を受けました。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。このことに対して、他の委員から御意見はありますか。</p>
石橋課長	<p>文化財課の石橋です。この方向性の部分は、恐らく前の計画からほとんど変わらずに引き継がれているものだと思うのですが、書いてあること自体は間違っていないと思っています。基本的には歴史や文化を知ることというのは自分と他人のアイデンティティを認めるという部分に関わっていると思います。それが、つくばの場合は国際社会ということで、つくばスタイル科とかで何か書かれているのかは分からないのですが、日本と外国であっても、つくば市と土浦市であっても、北条と谷田部であっても同じことが言えるので、基本的には国際社会という言葉にこだわって残さなくても良いと思っています。あと、場の整備のところに文化財もまとめていただいているのですが、前回の計画では色々なところに細切れにちょっとずつ記載があったものを、そうではなくまとまっていた方が良いのではないかとということで、事務局でまとめてくれたのですけれども、何か良い配置方法があれば、お知恵を頂ければなと思っています。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。</p>
小野村委員	<p>おっしゃることはとても良く分かります。ここにこういうふうに書きたいというのはすごくよく分かるのですけれども、まさにおつ</p>

	<p>しゃるとおりだなと思っておりまして、どこに書くのかは非常に難しいなと思います。ただ、書き方としてもうちよつと他との統一性ということを考えてはどうかなと思います。ただ、書かれていることに対しては、先ほどの国際社会のところを除いて異論はありませんので、このままでも良いのかなと思いながら、一応2点言わせていただきました。</p> <p>併せて50ページの方ですが、「文化を誇る」という表現が出てまいります。いまグローバル化という中で考えた時には、この「誇る」という表現はどうなのかと感じました。「誇る」という言葉の意味合いの中には、自分が優勢であって他を見下すというようなニュアンスもとれるので、基本的には文化は他と比べてどちらが良いとかいうものではないので、変更案を出させていただきましたが、「つくば市内の文化財を市民が大切に思い」というような形ではどうかなと思いました。それから先ほど根津委員から出た「沢山」という表現と同じだと思うのですが、「貴重な」という言葉をわざわざ入れなくても、基本的には文化財は貴重なものですので、「つくば市内の文化財を市民が大切に思い」というような表現ではいかがかなと思いました。変更案を出させていただいておりますが、参考にさせていただければ幸いです。</p>
和田委員	<p>いまの御意見に関して、いかがでしょうか。はい、根津委員お願いします。</p>
根津委員	<p>49ページに戻るのですが、施策の方向性の4行目にある「世界に誇れる」というところに「誇る」という言葉が出てきますので、そこ併せて変える必要があるだろうなというのが1つです。</p> <p>それから、先ほどの国際社会云々のところですけど、今申し上げたところに「世界」という言葉が出てきているのであれば、「世界で活躍する」と言い換えてしまっても違和感はないかなというふうに感じました。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございます。</p>
石橋課長	<p>「誇る」という言葉についてなのですが、平成30年に「つくば市文化財保存活用計画」という計画を作りまして、その中の一</p>

	<p>一番大きい基本理念のところに「つくば市民が誇り、市民とともに伝える文化財」ということをキャッチフレーズ的に入れていています。もちろん「誇る」ということが、相手を見下すというニュアンスではなく、自分が思っている良いところをもっと発信してお互い認めあっていこうよという能動的なニュアンスで使っている言葉ではあるので、文化財の計画との整合性を勘案すれば残したい言葉ではあると思います。「貴重な」という言葉については、文化財を貴重だと思っていただければありがたいと思っていますので、取っても差し支えないかなと思います。以上です。</p>
和田委員	<p>小野村委員、いかがですか。</p>
小野村委員	<p>この「誇る」については、私もそこまでこだわるものではありませんが、つくば市の、まだ残っていると思いますが、「世界が溶け合うまち」みたいなキャッチフレーズありましたよね、「融合しあう」でしたか。どこかにそういうキャッチフレーズが使われていたと思うのですが、最近あまり見ていないかな。そこでも、ついこの間までは「ニューヨークは人種のるつぼ」のような表現が使われていたものが、今は「るつぼ」という表現は使いませんよね。ブレンドという考え方はもう違うということで。そうやって時代が変わってくると意味合いがどんどん変わってくるので、そういう意味では、私もついこの間まで「誇り」という言葉を大事に使っていましたが、今後の国際社会のことを考えると、やはり「文化を誇る」という表現は段々と改めていくべきことではないかなと思います。今回でなくても、今後の課題として検討いただければと思います。</p>
和田委員	<p>ありがとうございます。もう1点、「国際社会」を「世界」に書き換えるという御意見もありましたけれども、いかがですか。</p>
小野村委員	<p>そうですね、教育大綱の中でも何度も出てきたことなのですが、「世界で活躍する人材」とか「世界に変革をもたらす人材」というのは、どうしてもエリート主義というか、優秀な子どもたちを育てましようということで、SDGsの「誰一人取り残さない」という趣旨とは違うのかなと感じます。もちろん世界で活躍する人材も出てほしいですけども、例えば、世界で活躍しなくても、私の祖父</p>

	<p>はお豆腐屋さんだったのですが、学がなくて貧しくて豆腐屋をやっていたのですけれども、私は祖父をととても尊敬していて、美味しいお豆腐を近所の人に作り続けた彼を尊敬しています。そういう人生も素晴らしいものだと思っていて、そういう人生を否定しないという意味でも、つくばの歴史・伝統・文化という時には、国際社会でということをおざわざ入れなくても良いのかなと私は思います。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。委員の中から御意見ありますでしょうか。このことも踏まえて文化財課の方で考えていただければと思います。先に進めさせていただきます。51ページ、基本方針8について、何か御意見ありましたらお願いいたします。小野村委員、よろしいですか。</p>
小野村委員	<p>これは確認ですが、基本方針8の項目が加わっていて、最初の方のページの体系図は直っているのでしょうか。10ページですね、直っていますか。</p>
青木係長	<p>直っています。</p>
小野村委員	<p>大丈夫ですか。</p>
和田委員	<p>上田委員、お願いします。</p>
上田委員	<p>2ページ目の目次のところに基本方針がズラッと並んでいるのですが、基本方針7と9に挟まれている8の学びにカギ括弧がついていないのが気になって、これは付けてはいけないのかなと思って取組を見てみたのですが、カギ括弧をつけても特に問題はなさそうなので、ここは基本方針のタイトルの学びにカギ括弧を付けた方が他との繋がりの中かで自然に見えるのかなと思いました。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。そうですね、カギ括弧で学びという言葉で囲うという話でしたので、ここもそのようにお願いします。51ページ、52ページに関してはよろしいですか。沢山赤で直していただきましてけれども、事務局、ここはよろしいですか。この通りで</p>

	<p>すね。</p> <p>それでは基本方針9の方に移らせていただきます。53ページ、54ページ、こちらを御覧ください。『「学び」を支える協働体制を充実する』のところで、何か御意見ありましたらお願いします。長橋委員、お願いします。</p>
長橋委員	<p>市P連の長橋です。事前にも書かせていただいたのですが、施策の方向性に「スポーツクラブなど」という表現があって、54ページの方にも「スポーツ団体等」とあるのですが、文化とか芸術とかの団体もあると思うので、そういうものも「など」や「等」に入っているとは思いますが、明記していただけるとありがたいなと思いました。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。事務局、いかがですか。</p>
笹本課長	<p>現在の取組としてはスポーツ団体に限られている形です。今後の考えとして芸術・文化の分野でも学校との間を繋ぐような形で取組ができれば、ということもあるのですが、そこまで明文化することはまだ難しいかなというような状況です。</p>
長橋委員	<p>ありがとうございます。「など」や「等」に文化や芸術が入っているという認識であれば問題ないと思います。よろしく願いいたします。</p>
小野村委員	<p>ありがとうございました。小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>ここは変更案を出させていただいておりますが、「各種地域文化・スポーツクラブなど」としてはどうでしょうか。今後の対応としてはそんなに難しいことではないのだろうと思うので。</p> <p>いま学校の中でもクラブや部活動を地域化するという取組が始まっていますし、その中で今現在、荃崎でしたっけ、吹奏楽の支援に地域の方が入ってくださったりしていますよね。そういうことを考えれば、ここで「地域文化・スポーツ」と入れても大丈夫なのではないかなと私は思います。変更案の紙面がありますのでここでは読みませんが、参考にさせていただければと思います。</p>

<p>和田委員</p>	<p>それから、53ページでは主な取組として「公民連携で推進するフリースクール等地域資源の活用」ということがありますが、これは私個人としてはフリースクールを入れていただくことは嬉しいのですが、整合性で考えると、「公民連携で推進する地域資源の活用」であっても良くて、ここにフリースクール等という具体例は入れなくても良いのではないかなど、ここだけポツッと浮いているなという印象を受けました。</p> <p>それから、54ページの「学校・家庭・地域・行政の連携・協働」という部分ですが、協働体制ということを挙げる以上、やはり教育委員会が自ら胸襟を開かずについて家庭や地域の教育力の向上というような表現を使うことに対して、やはり上から目線という印象を受けます。そこで、変更案としては「地域とともにある学校を目指し、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たし、かつ各々に緩やかにつながり、児童・生徒たちの豊かな成長を支えていきます」というような表現に変えてはいかがでしょうか。</p> <p>これは1つの案で、紙面にはもう1つありますが、「ホームページなどを介して、学校教育や教育行政に関する情報を発信するとともに、地域で催される子育てや芸術文化活動等の情報を収集、発信することでその活性化に努めます。また、出張教育委員会など地域の声を聴く機会をもつなどして開かれた教育委員会を目指します」ということで、教育委員会を開いていくということはこの辺りでしっかり打ち出しておかないと上から目線というような印象を受けてしまうのではないかと思います。以上です。</p> <p>ありがとうございました。今の御意見につきましては、小野村委員の別の紙面に載っているものですね。こちらについても検討していただければと思います。それと、「各種地域スポーツクラブなど」というところ、「各種地域文化・スポーツクラブなど」というふうには、「文化」は入れた方が良いのではないかという御意見もありました。こちらも検討していただけますでしょうか。またさらに、53ページでは、「フリースクール等」というところは取ることが良いのではないか、「公民連携で推進する地域資源の活用」で十分なのではないかというようなことでした。もう第6回の委員会ですので、ここで決めていきたいというふうに思うのですが。生涯学習推進課、お願いします。</p>
-------------	---

伊藤課長	<p>生涯学習推進課長の伊藤です。小野村委員、ありがとうございます。前半の部分は確かにそうかなと思うので修正をさせていただきたいと思います。後半の部分ですが、様々なところで情報の収集ということ具体的に上げるところとして、いろいろな情報が「等」、あえて列挙をしないことで他のものを繋ぐことも可能とっておりますので、固定的にならない考え方を「緩やかな」繋がりとして、修正をさせていただきたいと思います。</p>
和田委員	<p>小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>おっしゃること、よく分かりました。教育委員として、社会福祉協議会のボランティア推進協議会の会議にも出させていただいております、社会福祉協議会さんも一生懸命地域のために貢献しようとしてあります。先日の会議でもやはり福祉体験などをもっと子どもたちに親んでもらうためにどうすれば良いかというような話し合いが持たれました。両方の会議に出席していて、社会福祉協議会とか教育委員会とかもっと上手く連携できないかなと思うケースが多々あります。</p> <p>もう1つ、社会福祉協議会でも申し上げたのですが、実は茨城県は、ちょっとデータが古いですが、私の記憶の中にあるデータだと、住民当たりのNPOの数が全国でワースト2位なのです。多分その順位自体は変わってはいないと思います。つくば市はそこまで少ないわけではないのですが、県としては全国でワースト2位です。何故そのような市民団体が伸びてこないのかというと、大きな原因の1つとして私自身がNPOで活動していると思うのは、情報ツールが無いのです。色々な良いイベントをやっても発信できない。まずテレビ局が無いことはないですが、弱い。地元の新聞がやはり弱いということで、つくばにいてもつくばのことが分からないというのが多分にあるので、今後の課題として、学びを支える協働体制と言ったときに、教育委員会辺りでもっとリーダーシップをとっていただいて、ホームページなどを作っているというので、そういったところで情報発信をしていただくと良いのかなと。今回の計画でどうこうという訳ではないのですが、それも含めて今後も検討させていただきたいなと思います。</p>

和田委員	<p>ありがとうございました。では、そのようなことで事務局の方にお願ひしたいと思ひます。根津委員、お願ひします。</p>
根津委員	<p>ちょっと細かいところなのですが、54ページのホームページのところなのですが、「また、ホームページを利用し」というのは、これはどこのホームページを指しているのでしょうか。市ですかね。あるいは、教育委員会のホームページということでしょうか。どこのかということをおイメージしていただきたいというのが先ほどの小野村委員からのところと関連してです。</p> <p>もう1つは、出張教育委員会という言葉が突然出てきていて、私は前回いなかったのだから分からないのですが、これはどういう意味ですか。出前か何かでやるということですか。</p>
笹本課長	<p>前回、小野村委員からタウンミーティングに関する御提案があったのですが、不特定多数で集まる場を作るというよりも教育委員会等を庁舎以外の地域で行えるようなことを想定してこのように書いています。</p>
根津委員	<p>分かりました。1つの案ですけれども、一般の言葉ではないわけですので、カギ括弧を付けていただひて。教育委員会がどこかに出張するのか、と。まあそういう意味かもしれませんが、カギ括弧を付けていただひたほうが良いかなというのが2つ目。</p> <p>最後ですけれども、その次の「家庭や地域の教育力の向上」の下の最後の段落ですね。「家庭教育学級への参加が難しい働く保護者」というふうにお大分限定をかけているのですが、趣旨としては働いていない保護者でも参加が難しいケースがあるわけですので、この、「が難しい働く保護者」をとってしまつて、「家庭教育学級への参加に向けて」、あるいは「参加促進に向けて」というふうにして、この条件をつける文言はとつてしまつたほうが良いのではないかとというのが3つ目です。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。まず1つ目、ホームページは、市のホームページということ、で、「市の」と訂正していただければよろしいですか。</p>

貝塚次長	従来の教育委員会が持っているサイトを使って行うことを想定しているので、市だけではありません。
和田委員	なるほど。分かりました。
貝塚次長	表現は分かるように検討いたします。
和田委員	<p>分かりました。出張教育委員会のところにカギ括弧を付けるというのは異論ないところですかね。</p> <p>3つ目、家庭教育学級への参加に向けてということで、「難しい働く保護者」というところをとるといえるのはいかがですか。</p>
伊藤課長	<p>これまで家庭教育学級に参加する保護者がどんどん減ってきているということで、いろいろな条件があるのですが、やはり働くお母さんたち・お父さんたちがいっぱいいますので、そういったところをターゲットにして、企業へ出向いて行ったり、保育所で家庭教育をやったりと、今までやったことのないようなことをこの5年間でやりたいので、できれば「参加が難しく働く保護者などに向けて」のように、「など」でその他を含めさせていただきたいと思うのですがいかがでしょうか。</p>
和田委員	生涯学習推進課の意見に対しまして、根津委員お願いします。
根津委員	「働く」だけ取るというのは駄目ですかね。これが、働いていない保護者はどうするのだというふうにも読めてしまうというところをどう考えるかですので、働いていなくても参加が難しいケースというものもあるのではないかとということが質問の趣旨だったのですが、いかがでしょうか。この「働く」というところがちょっと引っ掛かるのですが。
和田委員	私も実は同意見で、学校現場として仕事を持っている方が多数参加してくれます。専業主婦の方でも、働いていないから家庭教育学級に沢山来るかということ、なかなかそうではないと実感として思っているのですが、生涯学習推進課の方で働く職場に家庭教育学級を仕掛

	<p>けていきたいというイメージがあるがためにこの文言を入れたいという、その気持ちも分かります。ただ学校現場では、働いていても働いていなくても、そのプログラムが魅力的であれば人は集まりますし、そうでないときはなかなか難しいというのが実感ですね。「働く」を入れるか、取るかということ。</p>
伊藤課長	<p>そうしますと、「働く」を取るのであれば、「企業の協力を得ながら」というところは、ちょっと意味合いが違ってくるので、「オンライン講座や」みたいにさせていただきたいと思います。</p>
根津委員	<p>すいません、この「企業の協力を得ながら」というのが分からなかったのですが、今の説明でやっと分かったのですが、これは働く保護者の職場ということなんですね。</p>
伊藤課長	<p>そうですね。職場ということ。</p>
根津委員	<p>なるほど。民間企業がどこか出資してくれてこういうことをやってくれるということで、いやあ良い企業があるものだなあと感じていたのですが、そういうことではないわけですね。分かりました。そうであれば、そこの「働く」と「企業」のところの兼ね合いというところで調整をお願いできればと思います。以上です。</p>
和田委員	<p>よろしいですか。ではそれで調整してください。このページはこれでよろしいですかね。上田委員、お願いします。</p>
上田委員	<p>53ページの施策の方向性のところなのですが、「コミュニティ・スクール型の学校づくり」というで、「コミュニティ・スクール型」というのが、文科省が進めているようなコミュニティ・スクールなのか、それとは違う「型」なのか。この辺りについて、御説明をお願いいたします。</p>
和田委員	<p>生涯学習推進課、お願いします。</p>
伊藤課長	<p>いわゆる文科省が言っているコミュニティ・スクールという「型」はございます。こういう形でやってくださいね、それに対しては補</p>

	<p>助金を流しますよ、というものになっているのですが、じゃあ様々な地域でその通りにできるのかと、無理やり押し込んでいいのかということもあるので、そこはやはり、この5年間をかけて色々な試行錯誤させていただいてモデル校も作りまして実施をしていきながら、つくば型のコミュニティ・スクールを模索していこうというところがございます。例えば、都市型と農村型で違う部分もあるのかなと思いますし、そういったところのやり方をここで今決めてしまうのではなくて、少しずつ考えていきましょう、というところで「型」という言い方をさせていただいたので、逆にコミュニティ・スクールという言葉を使わない方が良いのかなということも考えたのですが、そんな形の考え方です。いかがでしょうか。</p>
小野村委員	<p>今の説明を聞きまして、私もこのコミュニティ・スクール型って何なのだろうと思っていたのですけれども、おっしゃることはよく分かりました。私も今のコミュニティ・スクール制度には疑問を思っています、文科省はやたらとコミュニティ・スクール、コミュニティ・スクールと言うのですけれども、じゃあ中身は何なのかということで、本来素晴らしいものが、段々違ってきているぞという感じがしています。ここは、もし残されるのであれば、今おっしゃったことをもう少しどこかで、次のページなどで書かないと分からないのかなと思います。もし書かないのであれば、やはりここは消した方が却って分かりやすいのかなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
上田委員	<p>ありがとうございます。私も、コミュニティ・スクールというのは文科省が学校運営協議会を置いてという形で法令化しているものですから、この言葉を使わずに削除した方が誤解を生まずに良いかなと。学校・家庭・地域・行政がつながって協働していくということが書いてありますので、その意味は十分に汲み取れるのかなと思います。</p> <p>あと、2段落目の1行目ですけれども、「インターネットを用いるなどの新しい形の」とあるのですが、インターネットを用いるのが新しいのか、これまでインターネットを使っていなかったから新しいのかということで、「新しい形の」と言っているのでインターネットではなくて、例えば次のページに出てくるオンライン講座な</p>

	<p>どを用いた方が、今更インターネットが新しいというイメージはないので、少し変えた方が良くないかと思えます。それから、家庭教育学級という形で限定するのではなくて、「オンライン講座など新しい形の家庭教育を展開する」、あるいは「家庭教育事業を展開する」、という形で、家庭教育学級というよりは、むしろ家庭教育学級を軸に据えながらもより幅広く家庭教育を推進していくという形で修正をした方が良くないかというふうに思えます。</p> <p>それからその2行下ですけれども、非営利活動組織という言葉が急に出てくるのですけれども、先ほど企業の話もありましたが、これまではずっと「公民連携」ということで「民間」という言い方を使っていたので、浮くようすけれども、「民間」にしたほうが整合性はとれるのかなと思えます。もし敢えてこの意味を入れるのであれば、NPOとした方が良くないかもしれないですけれども、そうしてしまうとかなり限定されてしまう気がするので、「民間」で良いのかなというふうに感じました。以上です。</p>
和田委員	生涯学習推進課、お願いします。
伊藤課長	上田委員のおっしゃるとおり、コミュニティ・スクールという言葉は削らせていただきます。「インターネットの」というところも「オンライン講座などの家庭教育事業」なり、「家庭教育を展開する」という形に変えさせていただきます。
笹本課長	今お話しにあったとおり、「民間」という形で統一できればと思います。よろしくお願いします。
和田委員	小野村委員、お願いします。
小野村委員	他の点に異議はないのですが、「民間」というところには私は違和感があります。前にもちょっと出たと思うのですが、前にちょっと出たと思うのですが、スウェーデンでは民間企業が教育に参入していて色々な問題が発生しているという話も聞きます。今日本の学校教育においても、決して「企業＝悪」ではないのですが、非常に慎重に行く必要があると思っています。具体的に申し上げますと、部活動の地域化ということに私は非常に興味を持っていて、ある

	<p>会議に出た時に、私が教育委員であるということが分かった途端に、某企業の方がやってきて名刺を渡してということで、その時にハッキリと「ビジネスチャンスです」ということもおっしゃっていて、学校教育現場に企業が入ってこようというのは多分にあると思うのですね。そういうことを考えると、ここは「民間」と言ってしまうとどうなのかという思いもありまして、多分その辺りを汲んでいただいたのかなと思います。ただ、「民間」でも、「企業＝悪」だとは思っていませんので、「民間」でも良いとは思いますが、一応意見として挙げさせていただきます。</p>
和田委員	<p>貴重な御意見ありがとうございます。そのようなことで、調整していただけますでしょうか。では、53ページ、54ページは進めさせていただきまして、55ページに移りたいと思います。施策2「家庭への支援の充実」。55ページと56ページと、併せてお願いします。小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>55ページの施策の方向性についてですが、最初の文章は目指すということが重複しているのではないかと思います。あと、チャレンジングスタディですが、これも活用だけではなくて、どんどん進歩させていくべきであって、チャレンジングスタディの改善などとしてはいかがかと思いました。それで、変更案ですが、宮寺先生からも感染症への対策が重要であるとのことがありましたが、インターネットを活用した学習支援ということは確かにとても大事なことであるので、私は敢えてここに「感染症などによる休校等も念頭において、インターネットを活用した学習支援をより充実させるほか」ということで、チャレンジングスタディということが何度も何度も出ていますのでここでは用いなかったのですが、充実させるというような表現にはいかがかなと思いました。以上です。</p>
和田委員	<p>ありがとうございます。変更案について、何かございますか。根津委員、お願いします。</p>
根津委員	<p>変更案で、もしこの「感染症などによる」という文言を追加するのであれば、災害等、ですかね。起こるかどうかわからないという意味では、先ほど地震が来てびっくりしましたがけれども、そこ辺り</p>

	<p>の風水害等もあるわけですので、そこも追加していただいた方が良いのかなと思いました。以上です。</p>
和田委員	<p>災害が先ですか。</p>
根津委員	<p>「災害・感染症」ですかね。</p>
和田委員	<p>なるほど。そうですね、これを入れるのであれば災害もあった方が良いでしょう。小野村委員から変更案が冊子で出されていますけれども、事務局いかがですか。</p>
板谷所長	<p>総合教育研究所です。チャレンジングスタディにつきましては、1人1台端末になるのにあたって、子どもたちに1人1アカウント与えることになっておりまして、ログがとれるようになりますので、改善ということで大丈夫です。</p>
小野村委員	<p>改善し続けているということをアピールした方が良いでしょう。</p> <p>続けてよろしいですか。スクールソーシャルワーカーの配置というところなのですが、スクールソーシャルワーカーは非常に重要な役割の1つでして、いわゆるアドボカシーが非常に大事で、アドボカシーとしての役割が非常に重要であると感じております。特に、今のつくば市教育委員会の机の配置をみますと、前に豊里の庁舎にあったころの方が入りやすいなという感覚が外部の人間としてはあって、どうも今の庁舎は行くと前バーンとカウンターがあって、話かけようと思っても皆さん奥の方にいらしてなかなか話しくいなというところもあります。保護者の方からも同じように、ちょっと話しくくなったというような声を聴きます。そこで、スクールソーシャルワーカーさんには、ともすれば肩に力が入ってガツと言ってしまふ言葉を代弁していただくという役割が非常に重要で、そこに私は大いに期待しております。そういう意味で変更案として、「届きにくい声を代弁するなど、家庭・学校・地域との橋渡しを行いながら」ということで、いろいろな思いを抱えている方々の声を届けるという役割をこの中に加えていただけると良いかなと思います。以上です。</p>

和田委員	<p>ありがとうございました。スクールソーシャルワーカーに関して、いかがですか。</p>
横田所長	<p>教育相談センターの横田でございます。今アドバイスいただいた内容を入れて修正したいと思います。ありがとうございます。</p>
和田委員	<p>ありがとうございました。それではこのところは、最初の「目指す」が重複しているのも修正してください。それから、チャレンジスタディの改善については、実際改善してより良くなっているわけですから、それが分かるような言葉の修正をお願いします。それから、感染症だけでなく、災害・感染症というようなことも入れてはどうかという小野村委員の別紙の資料もありますので、こちらも併せて検討していただければと思います。それでは55ページ、56ページは、以上でよろしいですね。</p> <p>計画の推進の方に移りたいと思います。最後になりますが、推進体制と進行管理について、何かございますか。よろしいですかね。小野村委員、お願いします。</p>
小野村委員	<p>2番目にPDCAサイクルマネジメントということがありますが、PDCAという言葉を中心に用いる以上は、数値目標をしっかりと設定していかないといけないのではないかなと思っています。私も教育活動の評価ということでこの計画と並行してこの1か月間凄い枚数の書類を見ていたのですが、教育活動というものはとても難しいものであって、他市の教育委員会の評価などを見ますと数値目標をしっかりと設定しているところもあるのですが、実際にはかなり難しいなということを感じています。ここにPDCAという言葉を入れる必要があるのかどうか、入れるのであれば評価の仕方を見直さないと、ここで掲げている意味に少し矛盾が生じないかなというように思います。そう意味では「評価を行いながら、効率的な教育行政を推進します」としても良いのではないかと思います。もちろん実際には数値目標をしっかりと設定して評価できるようにしていただきたいと思うのですが、現状それはかなり難しいことでもあるのかなというふうにも思いますので。以上です。</p>

和田委員	<p>ありがとうございました。同感ですね。他の委員から何かありますか。こちら事務局の方で検討していただければと思います。冊子が一通り終わりましたので、ここから宮寺委員長の方にお戻りたいと思います。</p>
宮寺委員長	<p>和田先生、どうもありがとうございました。大幅に遅れての参加になりました。失礼いたしました。策定委員の方々からかなり詳細な御指摘があって改めて気づかされた部分が多々ありました。それを踏まえて事務局を担当しております教育総務課の方でもう1回全体の見直しをお願いしたいところであります。また今日担当部局からかなり詳細な説明をいただきましてありがとうございました。担当部局の方の話と策定委員の質問とがよく噛み合っていて、能率よく、また和田先生の進行が巧みであったために、そこまで時間を超過しないで終わることができたと思います。この後は、今日御指摘のあった点をできるだけ反映させるような改訂版の作成に教育総務課の方で取り組んでいただきたいと思います。また私もこの文面を作る上での、「て・に・お・は」などの訂正や、市民サイドに立って読みやすいものにする場に参加させていただきたいと思います。その全体が仕上がりましたら改めましてメーリングリストで全委員の方にお見せしたいと思います。その御意見をフィードバックしていただき、更に良いものにしていくという手続きを踏んでまいりたいと思います。最後になりますが、更に全体を通してこのところをもう少し検討してもらえないかということで、全体の基本方針でも結構ですので、この計画を練り上げる上でこういう点に注意してもらえないか、こんな点は特に重要だぞという点があれば御指摘お願いいたします。根津委員、お願いします。</p>
根津委員	<p>概要版を含めての話になるのですが、このイラストが引っ掛かるのですね。色の指定の仕方、これがどうもジェンダーバイアスがかかっているのではないかということです。例えば、概要版2ページのタイヤに乗って遊んでいる子の服の色ですとか、これは小野村委員の資料の中にもあったと思うのですが、GOALがあるというところは競争を想起させるのでいかななものか。あるいは3ページのイラストのところ、男性は眼鏡を掛けているように見えるのですが、女性が眼鏡を掛けているイラストがない。あるいは身長について男性</p>

	<p>が常に大きく描かれているのではないかという辺りですね。ジェンダーセンシティブィティの問題だと思うのですけれども、ちょっとその辺りは昨今の状況からすると男子はこう、女子はこうというのはいかがなものかなというふうに思いました。特に文言も大事なのですけれども、イラストや色から受ける印象というのは非常に大きいですから、ユニバーサルデザイン等のことも考えながらイラストについてはもう一度考えていただきたいと思います。これは概要版もそうですし、こちらの冊子版も、ということです。以上です。</p>
<p>宮寺委員長</p>	<p>ありがとうございます。今御指摘のイラストの点については、昨日に教育総務課と私の方で予習をしたときにも話題になった点であります。特にジェンダーフリーということについてどれだけ配慮があったのかということ。色の使い方については、私は気が付きませんでしたでしたが、男子と女子がこれだけくっきりと分かれていることについては問題を感じたところでもあります。ただ、いろいろなどころのイラストを取り込んだようでもありますので、こちらの方で手を加える余裕がなかったということのようですので、少し時間をいただいて作り直せるものは作り直していただきたいと思います。</p> <p>それから、概要版については、中身について、概要用に新たに文章を作ったものではなくて、本編の方の文章を抜き書きしてポンと貼ったものですので、中身の検討はこの場ではいらないと思います。今日訂正されたものについては、概要版の方でも変更していくということになると思います。</p> <p>あとどうでしょうか。小野村委員の方から変更案として、前回確認した点についてのもう1回の変更案が出ておりますが、特に小野村委員の提出された文書の1ページ目の趣旨のところ、長く変更案が提示されております。時間があればこれもこの場で検討したいところではありますが、時間もございませんので、小野村委員から趣旨を簡単に述べていただき、あとで教育総務課と私の方で本文を練り上げるときに盛り込めるものは盛り込みたいと思いますので、簡単に趣旨を御説明いただけませんか。</p>
<p>小野村委員</p>	<p>長いという印象がありましたので、先ほど申し上げたように少し分かりやすくしたいと思ったところでもあります。例えば一番最初に「本市では」で始まると思うのですが、その後「本市教育の振興に</p>

	<p>取り組んできました」とありますが、こういったところを「本市では」と前にある以上は後ろでは「本市」はいらなくて、「教育の振興に取り組んできました」とするだけでも大分文章は短くできるかなと思います。2段目も『しかしながら、「第2期プラン」を策定して以来』という辺りも、「しかし、それ以降も」くらいで済むのではないかと思います。なるべく短く、ということが1つです。</p> <p>それからもう1つは、『しかしながら、「第2期プラン」を策定して以来、我が国を取り巻く社会状況は』ということで、ちょっと我が国を取り巻くとか、そこまで肩に力が入らなくても、ここは、「しかし、それ以降も社会状況は大きく変化し続けています」くらいでも十分なのではないかと思います。それからその次の段、「また、我が国では」というところの段落ですが、その一番最後の方に「また、社会の持続的な成長・発展を展望した力を、生涯を通じて、一人ひとりのニーズに合わせつつ育成する施策」という言葉がありますが、子どもたちの幸せがあってこそそのものであるということを考えると、「社会の持続的な成長・発展を展望した力」というのはちょっとどうなのかなというところがあって、その辺りは大綱の中から抜き出して『一人ひとりが幸せな人生を送るため、また、持続可能なより良い社会を作るための「社会力」』といった表現に改めさせていただいたところ です。以上です。</p>
宮寺委員長	<p>ありがとうございました。ただいまの意見について他の委員の方々にさらに御意見を伺いたいところではありますが、それはここでは割愛させていただき、今の意見をこれからの成案を作る上での参考にさせていただきたいと思います。それでは最後の最後になりますが、事務局の方から今後の策定のスケジュールについて確認をお願いします。</p>
青木係長	<p>教育総務課です。今後のスケジュールなんですけれども、カラー版の資料を御覧ください。今日12月17日に第6回策定委員会を開催しまして、今回の協議を受けましての最終案を、パブリックコメントを1月に実施したいと考えています。こちらのパブリックコメントですが、1月6日から2月8日までというのが期間になっています。結果については2月中に集計し、集計した意見を反映して3月初旬に第7回策定委員会を開き、報告することが出来ればと考えて</p>

	<p>います。そのスケジュールは当初から一緒でして、3月中に教育委員会の定例会で決裁し、新年度からの運用としたいと考えているところです。以上です。</p>
宮寺委員長	<p>ありがとうございました。逆算しますと、来年の4月には出来上がっていないてはならないということで、遡って第7回の策定委員会を3月のいつごろになりますかね。もう一回開催し、そこまでは皆様に委員としてお勤めいただくと。</p> <p>さらにまた遡って、さっそくできました案をパブリックコメントを求めると、そして集計する時期が間に挟まります。そしてパブリックコメントに出すための原案を、これから教育総務課、担当部局とのやり取りを通じて原案作りに努めたいと思います。私もできるだけそこに参加して、できるだけ市民サイドに立って読みやすい文面にするように努力したいと思っています。</p> <p>それではよろしいでしょうか。教育局から何かあればお願いいたします。</p>
森田教育長	<p>本当にこれまで貴重な御意見を皆様からいただきまして、パブリックコメントを求めるところまで進んでまいりました。市長、副市長に今の状況を見ていただいて、いい議論をしていただいていますね、という御礼の言葉がございましたのでお伝えしたいと思います。これまで本当にありがとうございます。もう少しですので、またよろしくお願いいたします。</p>
宮寺委員長	<p>それでは事務局お願いいたします。</p>
笹本課長	<p>委員の皆様本日は大変貴重なご意見いただきましてありがとうございました。以上を持ちまして、第6回教育振興基本計画策定委員会を閉会させていただきます。お疲れさまでした。</p>